

## ◆医師の異動（12月）

■退職（H29.12.15付）

整形外科 南 良輔（みなみ りょうすけ）

## ◆地域医療従事者研修のご案内

### ■循環器学習会

#### 第2回

日時：平成29年12月25日（月）17:30～19:00  
テーマ：みんなで知ろう！循環器疾患！  
一体に合った運動負荷と栄養

会場：市立長浜病院 講堂  
講師：市立長浜病院 循環器内科医師  
児玉 浩志  
肥後 洋祐

#### 第3回

日時：平成30年1月16日（火）17:30～19:00  
テーマ：みんなで繋がろう！循環器疾患！  
一チームで考える医療

定員：各回80名、参加費：無料  
申込締切：【第2回】12月11日（月）  
【第3回】1月9日（火）  
申込先：看護局教育支援室 電話 0749-68-2300（代表）

### ■第7回化学療法研修会

日時：平成29年12月7日（木）17:30～19:00  
会場：市立長浜病院 講堂  
テーマ：（仮）感染と化学療法について  
講師：公益社団法人がん研究会有明病院  
感染症科部長 原田 壮平先生  
問合せ先：がん対策推進室 電話 0749-68-2300（代表）

## ◆年末年始の休診のお知らせ

平成29年12月29日（金）から  
平成30年1月3日（水）は通常の  
外来診察はありません。



## ◆11月2日（木）第292回開放型病床生涯教育研修会を開催しました

講師は、藤田保健衛生大学七栗記念病院 介護福祉士の船橋亮平先生で「地域包括ケアに向けて～介護福祉士の役割～」と題しご講演いただき、院内外から57人の参加がありました。

内容は、船橋先生の回復期リハビリテーション病棟での経験をもとに、介護福祉士の役割や今後の課題等についてわかりやすくご講演いただきました。

藤田保健衛生大学七栗記念病院は、回復期リハビリテーション病棟を3病棟、計150床を有する回復期リハビリテーションに特化した病院で、同じ回復期リハビリテーション病棟を有する当院としても非常に参考になる講演となりました。

## ◀◀◀ 編集後記 ▶▶▶

先日読んだある本の中で、  
心地よい暮らしのためには「不便」「不快」に敏感になる。  
“楽”にこだわるためにはストレスに敏感になる。  
これって暮らしを向上するために大事なポイントと書かれていました。  
物のかたづけが苦手な私。師走に入るのに何も手つかずで、気持ちばかり焦る毎日です。できていないことを焦りと感じず受け止めていこうと思ひ直しました。  
でも今年も片付かないままかなあ。

Pink-Bu



救急告示病院  
日本医療機能評価機構認定病院  
地域がん診療連携拠点病院  
厚生労働省臨床研修指定病院  
周産期協力病院

# 市立長浜病院 地域医療連携だより

## 理念

地域住民の健康を守るため、「人中心の医療」  
を発展させ、地域完結型の医療を進めます。

平成29年12月1日号 No.156

市立長浜病院ホームページ

<http://www.nagahama-hp.jp/>

市立長浜病院 検索

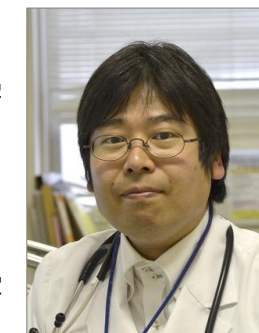


市立長浜病院患者総合支援センター 地域医療連携室  
〒526-8580 長浜市大成亥町 313 番地  
TEL:0749-65-2720 FAX:0749-65-2730

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は当院病院事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。12月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

## ◆NSTにおける栄養改善の重要性について

腎臓代謝内科部長 潮 正輝



「NST」とは、「Nutrition（栄養）」「Support（サポート）」「Team（チーム）」の頭文字からなります。

入院患者さんの栄養改善のためにチーム一丸となってサポートをいたします。入院患者さんは、病気で入院される時点で、3割以上の方が栄養不足をきたしていると言われていました。栄養状態の悪化は体力や免疫力を低下させ、筋力の衰えとともに感染や褥瘡（床ずれ）を引き起こし、治療を困難とします。そのため、栄養不良の患者さんの早期発見と適切な早期栄養管理が何よりも重要とされます。

1968年、アメリカで中心静脈栄養法（TPN）が開発され、経口摂取ができず栄養不良に陥った患者さんにも栄養治療ができるようになりました。TPNの普及とともに中心静脈カテーテルからの感染症が問題になりました。消化管を通した経腸による栄養補給の重要性が再注目されるようになりました。免疫を賦活し、病状・創部の改善を通して入院期間の短縮につながる事が分かったのです。患者さんの栄養改善のためには、点滴と経腸栄養ともに大切ですが、近年はより早期からの経腸栄養が患者状態の改善に良いといわれています。

1998年、日本において導入されたNSTは、Potluck Party Method（各部署からメンバーを選定し、一般業務を行いながらチーム活動をする方式）を用いてお互いに知識を持ち寄り、より患者に沿った栄養療法のプランを立て支援を行うようになります。当院においても、医師、看護師、薬剤師、言語聴覚士、理学療法士、歯科衛生士、臨床検査技士、管理栄養士たちのチーム医療として栄養管理することで、治療効率を高めます。簡単な流れとしては、理学療法士が患者さんの全身状態の把握と必要エネルギーを検討し、言語聴覚士が嚥下状態を確認、管理栄養士は必要とされる栄養と栄養素を調べて嚥下状態及び患者趣好にあった食事方法と内容を検討します。採血データの異常および栄養状態の変動を臨床検査技士が確認し、経口と併用して必要とされる点滴や薬剤内容は、薬剤師が検討します。医師はその流れを検討し、患者さんに最適な方法を選択します。

患者さんの状態が少しでもよい状態で退院できるように、嚥下チームによる嚥下機能の改善、褥瘡対策チームによる褥瘡の改善、理学療法士による筋力の保持・改善などがはかられています。NSTの役割は、患者の栄養状態の改善を通して、患者さんの免疫力を底上げし、より良い状態に戻し保持できるように力添えをすることです。

最後に。食べること「も」治療ですといいますが、入院中食欲が無くて大変かもしれませんが、食べること「は」本当に大切です。患者さんが食べて治療できるよう、支えることができるなら幸いです。



## ◆NST取り組み紹介

### 看護師の役割

NST専門療法士（看護師） 片岡 英代

栄養障害は病状の改善を遅らせたり、患者さんのQOLを低下させる可能性があります。早くから栄養療法を始められるよう、当院では、病棟看護師が入院時に栄養状態のスクリーニングとアセスメントを行い、栄養障害を生じている患者さんや、栄養障害を生じるリスクの高い患者さんを抽出します。必要時NSTに依頼され、栄養療法が開始されます。その後も定期的に評価をしていき、少しでも栄養障害が改善されるように努めています。NSTリンクナースは、NSTカンファレンスやNST回診に参加し栄養状態、摂食状態の把握を行います。患者さんに栄養療法が適切に行われるよう、病棟看護師と連携し、栄養療法を行います。食事内容や形態など患者さんが経口摂取できるよう調整したり、治療上の合併症で口の中が荒れて経口摂取ができない時や褥創や術後の創傷治療が遅れている場合は、栄養補助食品など追加し、優先的に栄養補助食品を摂取していただくよう病棟看護師に依頼しています。このように入院患者さんの栄養状態、摂食状態を把握し栄養学的視点で得た情報を生かし、NSTメンバーと連携をとりながら患者さんの栄養状態改善をサポートしています。

### 薬剤師の役割

薬剤師 田中 祐輔  
高山 直樹

NSTにおける薬剤師の役割は、患者の病態を考慮し、エビデンスに基づいた静脈・経腸栄養療法の適正化の推進です。活動内容として、①静脈・経腸栄養療法における処方支援、②栄養療法における適正使用があります。

静脈・経腸栄養療法における処方支援では、薬学的視点から病態に応じた処方設計支援等の栄養療法の計画に関与しています。静脈栄養療法は、中心静脈栄養（TPN）で投与している患者の支援をしています。患者さんの血液検査結果の推移を確認し、より適切なTPNのメニューを医師に提案し、栄養状態の改善に取り組んでいます。

栄養療法における適正使用では、薬剤を安全に投与するために、薬剤の経管投与に関するリスクの回避を行っています。TPNを安全に施行するために、無菌室でクリーンベンチを用いて、患者さんごとに高カロリー輸液の無菌調製を行っています。これにより、高カロリー輸液への細菌の混入を防ぎ、感染防止対策を行っています。TPNを投与している患者さんは同じ輸液ラインを用いて、様々な薬剤が点滴されます。高カロリー輸液と配合変化を起こしやすい薬剤の場合は、薬剤の含量が低下することや、主薬の析出・混濁等が起きることがあります。そのため、注射処方箋の内容を鑑査し、配合変化が起こる薬剤の組み合わせの場合は、薬剤の投与ルートの変更などを提案し、配合変化を未然に防いでいます。

これらの活動を通して、栄養療法の有効性、安全性を担保し、患者のQOLの改善に寄与していきたいと考えています。



TPN混注の様子

### リハビリの役割

理学療法士 浅井 麻未  
言語聴覚士 藤田 侑子

当院のNSTには、理学療法士1名、言語聴覚士1名が参加しています。NSTでのリハビリの役割は、NST対象患者さんのリハビリ内容や、現在の日常生活動作の状態、飲み込みの状態、体力の程度などの情報を提供しています。

理学療法士は、患者さんの身体状況の把握に加えて、リハビリや日常生活におけるエネルギー消費を報告し、NSTチームで必要エネルギー量の検討を行っています。検討した内容をリハビリスタッフに伝え、情報共有を行いリハビリに生かしています。また、栄養状態を踏まえ、退院後の生活を見据えた達成目標を検討し、リハビリを実施しています。

言語聴覚士は、摂食嚥下障害のある患者さんに対して、嚥下チームで行った嚥下評価結果や嚥下状態を報告しています。嚥下状態に応じて、食事形態や食事摂取方法などを提案し、患者さんにあった栄養摂取方法を多職種と検討しています。また、低栄養からの筋力低下で引き起こる摂食嚥下障害患者さんのスクリーニングを行い、嚥下チームと連携をとりながら早期に対応できるように努めています。

栄養障害がある患者さんは、筋力低下が進み、日常生活に影響が出てきます。リハビリを一生懸命行っても、必要な栄養が入っていないと期待される効果が得られにくくなります。NSTにリハビリが参加することで、他職種と連携しながら、栄養状態を考え効果的なリハビリが提供できるよう努めています。

### 管理栄養士の役割

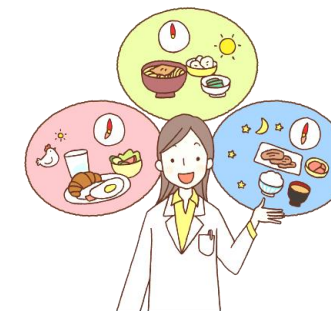
管理栄養士 赤尾 真樹子

当院では、NSTを多職種で結成し、栄養障害を生じている患者さんや栄養障害を生じるリスクの高い患者さんを対象として活動しています。NSTは適切な栄養療法を選択・実施して栄養状態の改善を図り、治療効果を高め、感染症・褥瘡等を予防し、患者さんのQOL（生活の質）を高めることを目標としています。

栄養を摂取するには、経口摂取・経管栄養・静脈栄養の3種類の方法があります。経口摂取では食欲不振や摂食嚥下障害などに対応したものを提案し、食事摂取量を確認しながら調整を行います。食事摂取量を維持するためには献立や配膳など様々な工夫が必要となりますが、経口摂取は最も生理的なものであることに加え、患者さんの安心感や満足感にもつながりますので最優先で取り組んでいます。経管栄養では濃厚流動食の種類や注入速度の調整を提案し、下痢などの腹部症状の予防に努めます。食事や経腸栄養だけでは十分に管理ができない場合などには、静脈栄養での栄養補給を提案しています。

多職種で協議し関わっても十分な栄養補給が困難なケースもありますが、患者さんより「食べやすくなったよ」「床ずれが良くなったよ」「退院が決まりましたよ」などの声をかけていただくと、チームとして介入できたことを大変嬉しく思います。

今後、院内の褥瘡対策チーム、嚥下チーム、緩和ケアチーム、感染対策チームなどとの連携を深め、よりよい提案ができるよう努めます。



## ◆11月15日に糖尿病週間のイベントを開催しました

糖尿病看護認定看護師 西堀 靖子

11月14日の『世界糖尿病デー』は、世界に広がる糖尿病の脅威に対応する為に1991年にIDF（国際糖尿病連合）とWHO（世界保健機関）が制定し、2006年12月に国連により認定されました。11月14日はインスリンを発見したカナダのバンディング博士の誕生日であり、糖尿病治療の画期的な発見に敬意を表しこの日を糖尿病デーとして顕彰しています。

今年は『世界糖尿病デー』を含む11月13日～19日の1週間を『糖尿病週間』とし全国で糖尿病啓発キャンペーンが行われ、糖尿病の予防や治療継続の重要性について市民に周知する重要な機会となっています。

当院でも毎年糖尿病週間に『糖尿病週間イベント』を行っています。今年は11月15日に、本館1階正面玄関エスカレータ横のスペースにて、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士が協力して、体組成測定、運動相談、血糖測定、お薬の相談、栄養相談、糖尿病の医療相談を、無料で実施しました。臨床検査技師、看護師が血糖測定を行い、測定された血糖値や体組成計の測定値をみながら、医師や薬剤師、管理栄養士、理学療法士からそれぞれ参加者へコメントしました。『糖尿病週間イベント』のちらしを見た、診察までの待ち時間があるから、病院に来たらこの催し物があり興味があった、毎年されているので今年も来ましたが一方、こんな機会に出会えて良かった、糖尿病に気をつけようと言われた方もおられました。昨年より多くの方が参加してくださいました。

私には糖尿病看護認定看護師として、院内および地域で生活習慣改善支援を行う役割があります。2016年に実施された糖尿病実態調査によると日本には総人口の15%を超える約2000万人の糖尿病患者および予備群がいると推定されています。糖尿病は痛みなどの自覚症状がないので放置しがちな病気です。健康診断を受けて頂くこと、また健康診断などで血糖が高いと言われた方や症状がある方は、「面倒だから」「検査結果が怖いから」といって放置せず早めに受診して頂くこと、治療中の方は治療中断しないことを説明していく予定です。糖尿病重症化予防の為に早期発見・早期治療が重要であり、今後もこの取り組みを通して、糖尿病を知ってもらい、治療を継続してもらい大切さを伝えていきたいと思っております。



糖尿病週間イベントの様子

